

和歌山県立新宮高等学校

— 普通科改革支援事業(R4～) — 「学際領域に関する学科」



和歌山県立新宮高等学校

はじめに…

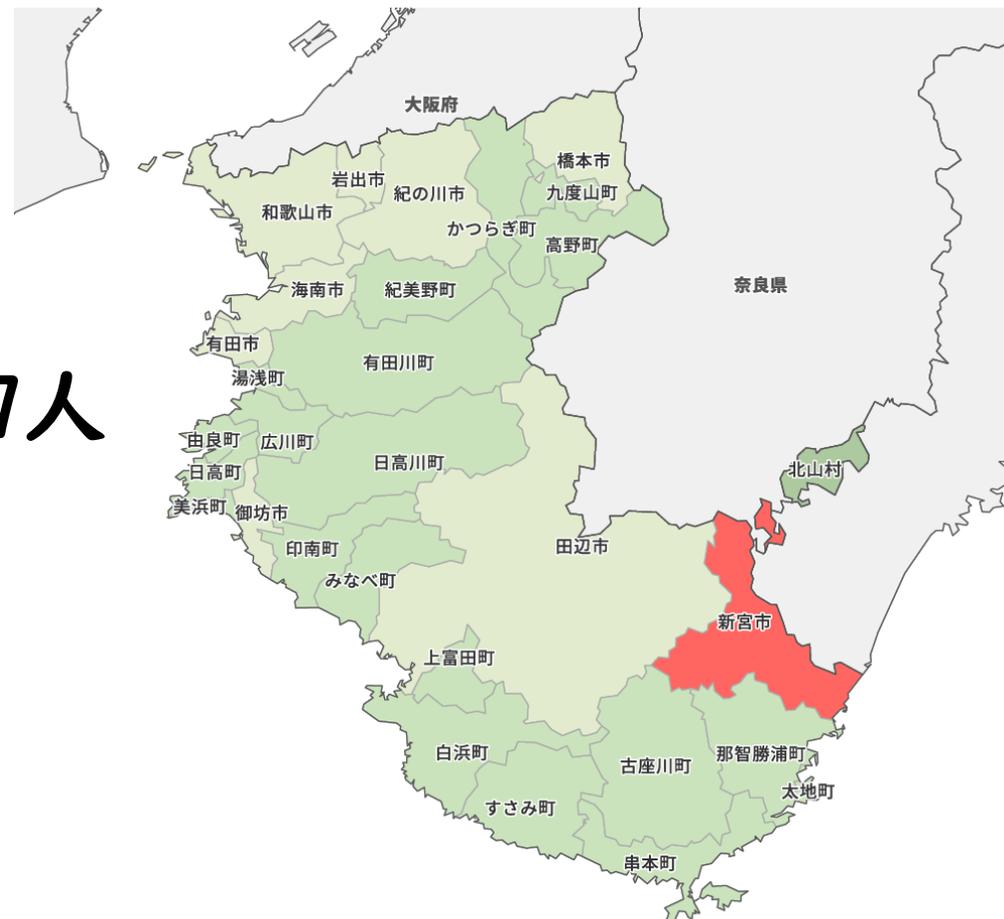
和歌山県立新宮高等学校について

所在地：和歌山県新宮市
神倉3丁目2番39号

歴史：明治34年(1901年)に開校

生徒数：1年200人、2年196人、3年187人
1学年普通科5クラス
計15クラス

教育方針：校訓「質実剛健」
校是「文武両道」



蘇りの地「熊野」～くまのSpiritで新時代を創る！～

和歌山県立
新宮高等学校

目指す人材像

物事を多面的、包括的に捉え、人や文化・自然を大切にできる人材

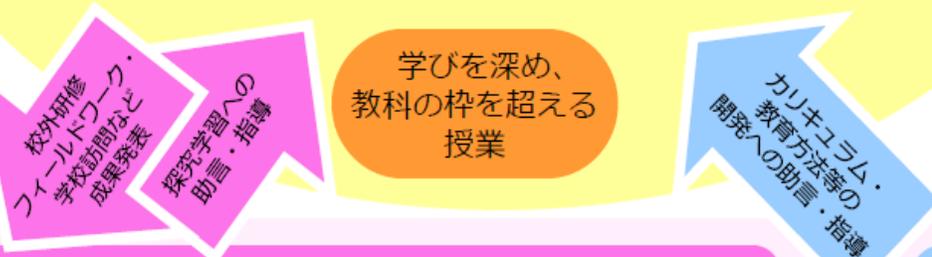
地元地域や国内外でリーダー・イノベーターとして活躍できる人材

☆ 視野を広げ、学び方や考え方を学ぶ

- ①熊野を知る。
・熊野の自然・歴史・文学等、過去・現在の熊野について知る。
・外から熊野を見る。
↓
- ②世界を知る。
・現代社会のありようを幅広い視点で捉え、特質や課題に迫る。
(講演・研修・新聞学習等)
↓
- ③考える
多面的・総合的に考える。
↓
- ④行動する。

気づきや問いに誠実に向き合う 広く深い学びの実現

創造的・批判的思考力 判断力・課題解決力・提案力
 情報活用力 協働力・コミュニケーション力・語学力 市民性・豊かな人間性



☆ 「熊野」にかかわる学際的な学び

- ①熊野に触れ、これからの熊野を考え、世界に発信する。
「歴史・文化」
「地域経済・産業」
「観光」
「地域医療・福祉」
「教育」「防災」
「宇宙」「海洋資源」
「環境保全・再生可能エネルギー」など
- ②SDGsの観点
Society5.0の到来を意識し、「新しい価値の創造」、「持続可能性」を実現する。

コンソーシアム



運営指導委員会

1. 令和4年度の取り組みと課題 (令和5年度の現状もふまえて)

①カリキュラム開発

②教科横断型授業の研究

③探究的な学びの実現

(学校設定教科・科目「くまの学彩」)

2. 質疑応答

①カリキュラム開発

令和4年度 カリキュラム開発のねらい



- 学際的な学び、文理融合型の学びの実現
- 幅広い進路希望への対応

両者をともに実現

①カリキュラム開発

令和4年度入学生 教育課程表

1 年	A類	現代の国語	言語文化	歴史総合	地理総合	数学I	数学A	化学基礎	地学基礎	体育	保健	芸術Ⅰ	英語COMⅠ	論理・表現Ⅰ	情報Ⅰ	総探	LHR
	B類	2	3	2	2	4	2	2	2	3	1	2	4	2	2	1	1

2 年	α	論理国語	文学国語	古典探究	公共	α選1 世界史探究 日本史探究 地理探究 3	数学Ⅱ	数学B	生物基礎	体育	保健	α選2 芸術Ⅱ 情報活用 体育探究 2	英語COMⅡ	論理・表現Ⅱ	家庭基礎	総探	LHR
		2	2	2	2	4	2	2	2	1	5	2	2	1	1		
β	論理国語	古典探究	公共	数学Ⅱ	数学B	数学C	化学	物理基礎 生物基礎	物理 生物	体育	保健	英語COMⅡ	論理・表現Ⅱ	家庭基礎	総探	LHR	
	2	2	2	4	2	1	4	2	2	2	1	5	2	2	1	1	

β選1

3 年	α	α1	論理国語	文学国語	古典探究	α選1 世界史研究 日本史研究 地理研究 4	α選3 政経 倫理 3	数学探究	理科探究	国語探究	英語探究	体育	α選2 芸術Ⅲ ア・ソ・ビ・演習 2	英語COMⅢ	論理・表現Ⅲ	総探	LHR
			2	2	2	4	3	2	2	2	2	3	2	5	2	1	1
	α2	論理国語	文学国語	古典探究	世界史研究 日本史研究 地理研究 4	政経 倫理 3	数学探究2	数学C	生物探究	化学探究 地学探究 2	体育	英語COMⅢ	論理・表現Ⅲ	総探	LHR		
β	論理国語	古典探究	政経 倫理 3	α選1	α選3	α選4	数学C	化学探究	物理 生物	物理探究 生物探究 3	体育	英語COMⅢ	論理・表現Ⅲ	総探	LHR		
	2	3	6	2	3	2	3	2	3	2	5	2	1	1			

β選3

β選2

β選1

①カリキュラム開発

令和5年度入学生カリキュラム

1 年	A類	現代の国語	言語文化	歴史総合	地理総合	数学Ⅰ	数学A	化学基礎	地学基礎	体育	保健	芸術Ⅰ	英comⅠ	論理表現Ⅰ	情報Ⅰ	くまの学彩	総探	LHR											
	B類																		2	3	2	2	4	2	2	2	2	1	2
																			選択群										
																			①	②	③	④							
2 年	論理国語	古典探究	公共	数学Ⅱ	体育	保健	家庭基礎	英comⅡ	論理表現Ⅱ	数学B 基礎数学	物理基礎 生物基礎	文学国語(2)+芸術Ⅱ(2) 文学国語(2)+情報活用(2) 文学国語(2)+体育探究(2) 化学	日本史探究 世界史探究 地理探究 物理(2)+数学C(1) 生物(2)+数学C(1)	くまの学彩	総探	LHR													
																	2	2	2	4	2	1	2	4	2	2	2	4	3
																			選択群										
																			①	②	③	④	⑤	⑥	⑦				
3 年	論理国語	古典探究	体育	英comⅢ	論理表現Ⅲ	政経倫理	日本史研究 世界史研究 地理研究 化学研究	数探2+理探2 数学探究 数学Ⅲ	文学国語 物理 生物	英語探究 生物探究 物理研究 生物研究	芸術Ⅲ プログラミング入門 化学探究 地学探究 数学探究3	国語探究 数学C-α 数学C-β	くまの学彩	総探	LHR														
																2	2	3	4	2	3	4	4	2	2	2	2	1	1

①カリキュラム開発

令和5年度入学生より

●学際的な学び、文理融合の学びの実現

⇒ 従来の文系・理系コースを廃止、
生徒が学びたい科目を選択

●幅広い進路希望への対応

⇒ 選択科目の幅を広げ、個々のニーズ
に対応

①カリキュラム開発

懸念されること

- 本校の従来のカリキュラムから大きな変更であり、保護者や生徒の不安が大きい？
- 生徒が将来の進路選択を見据えて適切に科目選択ができるか？

…など”

①カリキュラム開発

令和5年度の対応

選択の自由度が高いカリキュラムであるが、自由に選んだ結果、進路選択の幅を狭めてしまわないよう、**進路希望に応じた選択のモデル**を提示。

①カリキュラム開発

今後の課題

今年度は、科目選択の際にモデルを提示した。
が、本来のねらいを考えると、やはり生徒が
より自由に科目を選択できるように工夫する
べきか??どのように??

②教科横断型授業の研究

令和4年度 教科横断型授業の研究

- ・ 教科の異なる教員3～4人ずつで10グループを構成。
- ・ グループごとに教科横断型授業案を考案し、実践する。

まずはやってみよう！

②教科横断型授業の研究

令和4年度 教科横断型授業の実践例Ⅰ

英語 × 生物 × 地学

「世界遺産である屋久島のエコツアー・地形・生態系を学ぶ」

数学 × 体育

「心拍数や速度を計算して持久走に取り組んでみる」

物理 × 体育

「ボール投げの距離を測定、より遠くへ飛ばすための解析をする」

日本史 × 化学

「科学的な視点から歴史を考察する」

②教科横断型授業の研究

令和4年度 教科横断型授業の実践例2

情報 × 日本史 × 化学

「様々な観点から地球温暖化について探究する」

英語 × 音楽

「新宮高校の校歌の英語詞をつくってみよう」

国語 × 美術

「日本古来の色や組み合わせを知り、現代風のかさねをつくる」

②教科横断型授業の研究

今後の課題

教科横断型授業を本校の教育活動全体のどこにどのように組み込むか??

□学校設定教科・科目の中に教科横断的な要素を意図的に取り入れるか?

□各教科の授業で、教科横断的な実践に取り組んでもらえるよう働きかけるか?

など

③探究的な学びの実現

◆本校のこれまでの探究学習

「総合的な探究の時間」 (金曜 7 限)

◆令和 5 年度入学生より

「総合的な探究の時間」 (金曜 7 限)

+

「くまの学彩」 (金曜 6 限)

③探究的な学びの実現

令和4年度の主な取り組み

令和5年度以降に向けて…

- (1) 「総合的な探究の時間」を充実させるため、従来の実践を見直し。
- (2) 「くまの学彩」の研究・開発。

③探究的な学びの実現

(1) 「総合的な探究の時間」について

- ・ 金曜7限に各学年クラス単位で実施。
- ・ 1年生は探究の基礎を学ぶ。
- ・ 2年生はグループで興味関心のあるテーマを設定、年間を通じて探究活動。
- ・ 3年生は探究のまとめ・進路探究。

令和4年度も従来通りの形で実施して検証。

③探究的な学びの実現

(1) 「総合的な探究の時間」について

本校の総探の課題

- 正担任が各クラスを担当するため、きめ細やかな指導が困難。
- 生徒の興味・関心のある良いテーマがなかなか見つからない。
- 探究の基礎・探究のサイクルを意識した活動になっていない。
(単なる調べ学習で終わってしまう生徒が多い。)
- 情報収集がインターネットの情報検索に終始してしまっている。
- ポスター発表が活動のゴールになってしまっている。
- 総合的な探究の時間の評価をどうするか。

など

③探究的な学びの実現

(1) 「総合的な探究の時間」について

本校の総探の課題への対応

- 正担任が各クラスを担当するため、きめ細やかな指導が困難。
 - ⇒ 今年度より**正副担2人**で1クラスを指導。**キャリア研究部**とも連携して指導にあたる。
 - ⇒ 今後は教員の専門性を活かした**ゼミ制**なども検討。

- 生徒の興味・関心のある良いテーマがなかなか見つからない。
 - ⇒ 令和5年度スタートの「**くまの学彩**」でアプローチ。

③探究的な学びの実現

(1) 「総合的な探究の時間」について

本校の総探の課題への対応

- 探究の基礎・探究のサイクルを意識した活動になっていない。
(単なる調べ学習で終わってしまう生徒が多い。)
⇒ 1学年で探究の基礎を指導する際、「探究とは？」をより重点的に指導。
- 情報収集がインターネットの情報検索に終始してしまっている。
⇒ 本校図書館司書やコンソーシアム、和歌山県庁企画総務課データ利活用推進班との連携・協力。

③探究的な学びの実現

(1) 「総合的な探究の時間」について

本校の総探の課題への対応

- ポスター発表が活動のゴールになってしまっている。
 - ⇒ ポスター発表はあくまで中間発表であること、探究のサイクルを意識することなどを、生徒と教員に意識づけ。
- 総合的な探究の時間の評価をどうするか。
 - ⇒ キャリア研究部と教務部が連携して検討中。

③探究的な学びの実現

(1) 「くまの学彩」について（R4計画）

- ・ 金曜6限にクラス・学年単位で実施。
- ・ 1年次は、2年次以降の探究活動につながるよう、①事前学習、②講演・体験学習、③事後学習を3回1セットとして、年間10セットほど実施する。
- ・ 内容は「くまの地方」やSDGsに関連するもの。

③探究的な学びの実現

(1) 「くまの学彩」について（R4計画）

令和4年度の試行的な取り組み

- ・国連セミナー
- ・SDGs de 地方創生カードゲーム
- ・SDGs & 地方創生あわじ・とくしま体験学習

③探究的な学びの実現

(1) 「くまの学彩」について (R4計画)

国連セミナー



③探究的な学びの実現

(1) 「くまの学彩」について (R4計画)

SDGs de 地方創生カードゲーム



③探究的な学びの実現

(1) 「くまの学彩」について (R4計画)

SDGs & 地方創生あわじ・とくしま体験学習



③探究的な学びの実現

(1) 「くまの学彩」について（R5変更）

- 3回1セットではなく、原則週替わりで講演会や体験学習を実施。
- テーマも「くまの地方」やSDGsにこだわらず、なるべく様々な分野を設定。
 - = 1つ1つを深く学ぶのではなく、入り口をたくさん生徒にみせる。
 - = 生徒の興味・関心を刺激！

③探究的な学びの実現

(1) 「くまの学彩」について（R5変更）

令和5年度 「くまの学彩」1学期の取り組み紹介

- | | |
|----------|------------------------------------------------------|
| ①地域×観光 | 「新宮市の観光について」
新宮市役所商工観光課 |
| ②地域×環境 | 「ジオパークについて」
南紀熊野ジオパークセンター |
| ③国内×人権 | 「人権問題について」
新宮市役所人権政策課 |
| ④国外×食糧問題 | 「国連セミナー」
元国連WFPアジア地域局長 忍足謙朗さん |
| ⑤共通×SDGs | 「SDGs de 地方創生カードゲーム」
SDGs de 地方創生カードゲーム公認ファシリテーター |

③探究的な学びの実現

今後の課題

- ◆ 「総合的な探究の時間」、「くまの学彩」、各教科における探究的な学びを有機的に結びつけ、新宮高校としての探究的な学びをどのようにデザインするか？

最後に…

令和4年度（1年目のまとめ）

- ◆初めは、「探究とは？」・「学際とは？」など、分からないことだらけだった。
- ◆しかし、1年間それらのテーマ・問いについて考えて、議論したことで、少しずつ前進できた。
- ◆また、本校のこれまでの教育実践について見直すことにもなった。

ご清聴ありがとうございました。